

12月のコンサートに寄せて

12月の声を聞くと、クリスマスの飾りが街のあちこちで見られるようになり、ベートーヴェンの第九（交響曲第九番合唱付き）の演奏もあちこちで聴かれます。何故年末に第九？正直言ってわかりません。日本だけの現象なんですよ。

第九が日本で初めて演奏されたのは、1918年6月1日でした。場所は徳島県坂東町（現・鳴門市）にあった、坂東捕虜収容所で、演奏したのは、ドイツ人の捕虜だったということです。それがいつの間にか、と言っても近年になって、年末といえば第九、と定番中の定番になってしまったのです。日本って面白い国ですね。OMURA室内合奏団では、まだ第九を演奏していません。いずれ、とは思っています。

芸大時代、毎年、年末に歌っていたのがヘンデルのメサイアだったこともあり、メサイアはぜひやりたいのですが、合唱が大変なんです。

と言った次第で、今年の12月公演では、ベートーヴェンの交響曲第4番を聴いていただきます。三番の「英雄」五番の「運命」六番の「田園」のように有名ではありませんが、ラズモフスキイ弦楽四重奏曲集や、ヴァイオリン協奏曲、オペ

ラ「レオノーレ」など作曲された、創作意欲旺盛な時期の作品です。

プログラムの前半は、スペインイヤーにちなんで、ボッケリーニの交響曲第15番とロドリーゴのアランフェス協奏曲です。

ボッケリーニはイタリア生まれですが25才の時から42才で亡くなるまでスペインで活躍していました。有名な「ボッケリーのメヌエット」は弦楽五重奏曲ホ長調の第3楽章です。

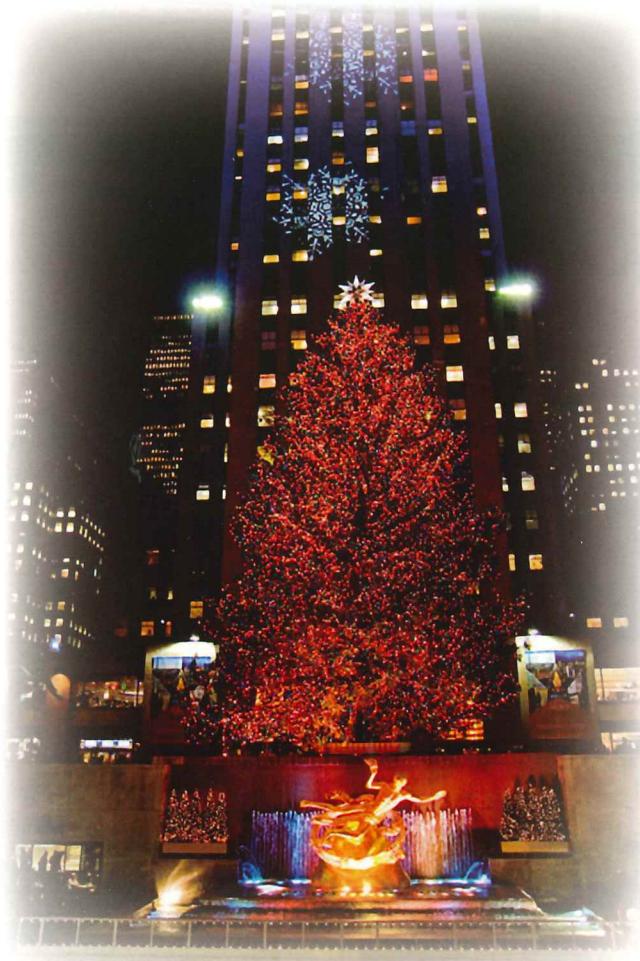
メロディーが浮かびませんか？

アランフェス協奏曲に関しては演奏家の益田正洋さんの寄稿をお読みください。ただ私が言いたいことは、この曲をどうしてもやりたかったということです。ニューヨークでの忘れがたい出会いがあります。

「恋のアランフェス」？

それよりも、長崎では20年ぶりの公演という、めったに演奏されない曲なのです。ぜひお聴き逃しのないように。

ご来場お待ちいたしております。



芸術監督 村嶋 寿深子

思い入れ深いアランフェス

村嶋さんもアランフェスはとても思い入れのある曲だと仰っていましたが、僕もこの曲は思い入れの深い曲です。

オーケストラ初共演もこの曲でした。演奏した日は2001年10月11日。あの同時に多発テロのちょうど1か月後。僕は留学2年目の年が始まって間もなくでした。ようやくNYでの生活に慣れてきた頃にテロが起き、想像もしなかった不安に直面して心落ち着かない頃でした。プライベートでも悲しいことがありましたし。

それと同時に、オケとの初共演もありました。学内のコンクールで優勝してソリストに選ばれ、学校の地下になるホールで演奏することに。

指揮者はデプリーストさんで、いきなりオケ初共演が超大物指揮者。でもオ



ケのメンバーは普段は授業などで勉強している友人達ばかりなので、最初のリハーサルから本気で準備して来てくれて、しかもそれがすごく上手いんです。(さすがジュリアード!!って改めて感じた瞬間でした。)

初オケが仕事ではなく、そんなすごく恵まれた環境の中で演奏できたのもすごく幸せでした。本番で2楽章を弾き終え、3楽章が始まった瞬間、「もう、この楽しい時間は終わってしまうのか…」と寂しい思いになったのを覚えています。

そんな思い出のあるこの作品を、地元長崎で演奏できるのを今からとても楽しみにしています。

益田正洋 (ギター演奏家)

Report

スクリーン&ミュージカル名曲コンサート ● 10月12日(土) シーハットおおむら・さくらホール

OMURAメンバーは役者ぞろいでノリノリの演奏

さあ~いよいよビートルズメドレーだ！　きたきたきたあ～　いよいよコントラバス亀ちゃんの見せ場が始まったぞ！お客様はどんな反応するかなあ～

えっ?!　ヴァイオリンの誰?!もう、このタイミングで、そんな面白い音をだしますかあ(笑)(笑)わあお～(^0^)種ちゃん(ファゴット)!何かやってくれるだろうと期待はしていたが、まさかビートルズに変装するとは…ウケる~予想を上回る展開!!おおお～みんな、きたきたきたあ♪♪♪と、我らがOMURAメンバーも役者ぞろいでノリノリの本番となりました。

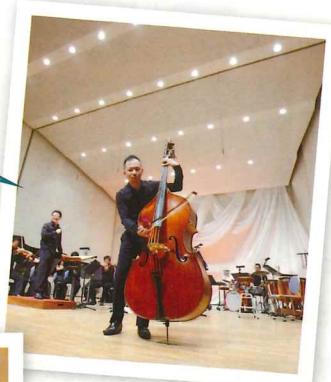
ゲストの鎌田さん、伽藍さんの素敵なお声はいうまでもなく、最後の劇団夢桜さん達も加わり、全員で奏でたエピローグは魂に響きました。

音楽を通してつながることができる素晴らしいを改めて感じました。次のポップスコンサートが今から楽しみです!



花田朋子 (オーボエ)

スポットライトを浴びる亀ちゃん♪



会場も大爆笑!

学校コンサートならではの楽しさ

第2ヴァイオリンを担当しています中原大幾です。現在文化庁の「子どもの文化芸術体験事業」で、五島、対馬、壱岐、島原などの小学校、中学校にて、スクールコンサートを行っていますが、私は10月に島原の南串山第二小学校に伺いました。朝からのコンサートでしたので、雲仙温泉に前日入りして、おいしい食事を食べて温泉に入り、明日のコンサートに向けて英気を養いました。これが旅（業界用語で通称：ビーター）の醍醐味です。

翌朝は、小学校の皆さん元気な声で合奏団を迎えてくれました。私たちの演奏が始まった時、子ども達は少し緊張しながら聴いているように感じましたが、曲の合間に団員のお話などを交えながらコンサートを進めていくうちに解けてきたように感じました。

楽器体験では、初めてのヴァイオリンやチェロに触れてドキドキしながら楽器を弾いていました。質問コーナーではたくさんの質問があり、団員も少し戸惑った場面もありましたが、楽しいコンサートになりました。

このようなコンサートは普段のホールで聞くコンサートとは違い、近い距離で楽器が見えたり、演奏の迫力を感じたり、ま



た演奏者に質問ができたり、楽器も体験できたりと子どもたちにとって盛り沢山な体験になったかと思います。これからも合奏団一同、このようなコンサートを続けていき、若い方たちに音楽の楽しさを伝えていきたいと思います。



中原 大幾 (ヴァイオリン)

11/11(月)第二中、12(火)第三中、13(水)第一中、19(火)三会中、20(水)有明中

日ごとに良くなつたチームワーク

6月の雲仙市4校に引き続く、島原市5中学校へ出向いてのコンサートでした。普段のアウトリーチコンサートは、少人数の編成ですが、今回は、弦楽器9名、木管楽器3名、計12名のメンバーでお邪魔しました。

プログラムは、ポピュラーなクラシック名曲に加え、バロック風「日本の秋」などを演奏しました。特にご当地ソングの「島原の子守唄」の室内楽版が、子どもたちの心に新鮮に響いたようでした。楽器体験では、会場中爆笑するシーンも見られ子どもたちは、とても楽しんでいたようです。

団員のみなさんもリハーサルを重ねるうちにみんながアイディアを出し合い、日ごとにチームワークも良くなり楽しい一時となりました。

何といっても最高のパフォーマンスは、「プリンク・プランク・プリンク」でのリズムに乗った田辺君のチェロ回し、達成したときの笑顔も最高でした。リーダーの私を支えてくれた名司会者の永留さんと亀子君にも感謝したいと思います。



今回のコンサートでは、勉強などで疲れているかもしれない子どもたちへ、悩みの多いかもしれない子どもたちへ音楽でエールを届けることができていれば幸いです。

最終日のアンコール曲「手紙～拝啓十五の君へ～」の途中、会場全員が総立ちになり、音楽を通じて心のふれあいを感じられた瞬間でした。島原の中学校のみなさん、感動をどうもありがとうございました。



川口 千穂 (ヴァイオリン)

♪ 音楽と私

宮沢賢治の「セロ弾きのゴーシュ」でチェロという楽器があることを知って、実際に見たときはなんて大きな楽器だろう、これを弾くなんて至難の業だと子供心に思ったものだ。その後見た映画「昼下がりの情事」でオードリ・ヘップバーンがチェロを持ち歩く姿は格好よくてかわいらしく、チェロは私にとってあこがれの楽器となった。

もちろん、自分が弾くなんてことは夢にも思わない。それとも幼稚園の頃にオルガンを始め、小学生でピアノに変わった頃から極端に短い右手の小指は音をうまく出せない、何度も練習してもなかなかうまくならないで、とうとう挫折してしまった。それ以来楽器演奏は苦手意識が先行してしまい、20才の学生の頃に母親が何を言って言ったのか今でも理解できないのだが、「お琴を習うか茶道を習うかどちらかに決めて」と詰め寄られ、迷わず小指が短くても問題がない「茶道」に決めたほどだ。

しかし、最近あのときに「琴」を習っていたらと思うことがあ

る。音を奏てる楽しみを知らないのはもったいないなとつくづく感じるからだ。それは村嶋寿深子さんとOMURA 室内合奏団のみなさんに出会ったことが大きいかもしれない。演奏する人の顔がわかるとということは、音も身近に感じるということにつながり楽しさの共有ができる。特に機会あって間近で聞いたチェロの深みのある音色は心に響き、とても贅沢な時を過ごすことができた。

OMURA室内合奏団のメンバーはアウトリーチ活動を熱心にされているが、ぜひずっと続けていただきたいと思う。将来のクラシックファンを作るのも大きな目的だが、私のような苦手意識のある子どもにも音楽の楽しさを教えてほしいと切に願うからだ。誰もが何かの楽器を演奏できたらなんと素晴らしいことだろう。



糸屋 悅子

(有)イーズワークス代表取締役

修爾くんのイタリア便り (2)

傍若無人なまでに

皆様こんにちは、日本食が食べたくてたまらないヴァイオリンの藤木です。こちらへ来てひと月と半分が経ちまして、生活には大分慣れてきたところです。会話はなかなか上達しませんが。

さて、今回は報告致したいコンサートが二件あります。一件目は、学校の学生主体のオーケストラで、去る10月24日夜、場所はChiesa degli Eremitaniという沢山ある教会のひとつにて催されました。曲目は「コリオラン」ベートーヴェン、「フィンガルの洞窟」メンデルスゾーン、「交響曲第73番」ハイドン、アンコールに「アヴェ ヴエルム コルプス」モーツアルトでした。入学してすぐに試験があったのですが、その点数によりコンサートマスターを任せる事に。そうなると何かしらスイッチが入ったのでしょうか、演奏を止めてまで各楽器に指示を出す傍若無人なまでのリーダーシップを發揮するに至りました。後でちょっと反省しました・・・。その写真がこちら、チューニングから本番、終了という流れになっています。



ご支援ありがとうございます (11月15日) 法人会員数 71件 (+3件)
現在 個人会員数 215人 (-1人) NPOは、会員皆様の会費が主な収入源です。
周りの方で、興味のある方がいたら、ぜひお誘い下さい。

編集後記

今年は、たくさん新しいことに挑戦できました！多くの方々との出会いもありました！今年もあと一ヶ月…頑張るぞ♪
(さあり)

念願の軍艦島へ行ってきました♥。その存在に圧倒され大感激したのと同時に切ない思いにもなりました。また行きたくな～♪オススメです♥
(いけっち)

秋風のなか始まった学校コンサートは、早や木枯らしの季節。一班6人編成で県内33校を回る超ロングランシリーズ。12人のリーダー講話はそれぞれ苦労の跡が見える。隠し味は校長先生指揮の校歌合唱。終わったら、「学校コンサートを見る学校教育の現状と課題」で一論文書けそな感じ。（まん）